

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら➡<https://youtu.be/dXefKGhmDvw>



過去の動画はこちら



連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

NPO法人とざわスポーツクラブ
山形県最上郡戸沢村

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年度から令和7(2025)年度までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

「いつでも・誰でも・いつまでも」楽しめる環境づくり
名称「フレスポCha³」に込めた6つの願い

私たちの活動する戸沢村は、出羽の山々を仰ぎ、最上川を母として育まれ発展してきた山形県の北部に位置する人口3,700人あまりの小さな村です。

クラブは平成17(2005)年～18(2006)年に設立準備委員会を立ち上げ、平成19(2007)年2月に設立されました。設立の背景には平成の大合併が進むなか「少子化のなかでやりたいスポーツができなくなることがないように子どもたちのスポーツ環境を整える」、「高齢化が進むなかで健康寿命を延ばす」、「社会情勢の変化に影響されず継続してスポーツを楽しむ環境を整備する」という考えがありました。

クラブの名称は①『仲間と「フレンドリー」に』②『いつも「フレッシュ」なスポーツ体験を』③『多くの仲間と「ふれあう」ことができる』の3つの「ふれ」と、①『いつでもスポーツの「Chance」がある』②『いろんなスポーツに「Challenge」しよう』③『クラブから「Champion」をめざそう』ということで、公募により「フレスポCha³(ちゃちゃちゃ)」と決まり、「フレスポ」の愛称で親しまれています。

子どもから90代まで「村一つ」の団結力。

多世代がつながる地域コミュニティ

平成25(2013)年5月に法人格を取得して「特定非営利活動法人とざわスポーツクラブ」となり、同年より戸沢村の指定管理者を受託しています。会員数は192名です。設立当初は子どもたちの割合が多い状況でしたが、現在では高齢者の参加も増え、上は90歳代まで幅広い年代の方にご参加いただいています。

教室は小中学生から高齢者まで8教室、文化活動を不定期で3教室行っています。そのほかに健康づくり事業や保育所や放課後児童クラブでの運動指導、プール開放事業や介護事業の委託を受け、令和5(2023)年から部活動の地域移行事業を受託しています。

設立当初からクラブの組織としてともに活動してきた5つのスポーツ少年団も少子化に伴う活動停滞のおそれから、村で一つのスポーツ少年団に改編し、保護者・指導者一体となって子どもの活動に関わる環境づくりも行っています。

行政が主催する委員会や学校運営にも参画を求められ、構成員として地域課題や子どもたちの身体・体力面での課題解決のために活動しています。



「バックカール」を楽しむ高齢者



保育所での運動指導

小さなクラブの知恵と工夫。広域連携で広げる可能性

小さなクラブのためできることには限りがあり、近隣のクラブとも講師依頼や共同での事業展開、スポーツ用具の共同利用など連携を図りながら活動を行っています。

事務局体制はクラブマネジャーが非常勤で1人、アシスタントクラブマネジャーが常勤で1人、運営スタッフが6人(うちアシスタントクラブマネジャー有資格者2人)で、月1回の運営委員会開催をめざして活動しています。そのほか14人の事業スタッフでクラブ全体の事業を運営しています。

2

取り組み内容

先行事例として女子バレーボールからスタート。

隣村のさけがわ友遊クラブとの連携が生んだ、新人戦優勝という快挙

部活動連携の始まりは、令和3(2021)年度に教育委員会から「部活動改革」の取り組みについての協議があり、クラブとして「取り組めるものは何か」を話し合いました。「部活動の地域移行」ということで現行の部活動の種目(柔道・野球・卓球・女子バレーボール・吹奏楽)を対象として、指導体制などを考慮し野球を除く女子バレーボール・柔道・卓球・吹奏楽の受け入れについて可能と判断しました。

村教育委員会としては令和4(2022)年度に、保育所・小学校・中学校の保護者、スポーツ少年団や各種目の指導者、スポーツ関係団体、教員等々の関係者で部活動移行検討委員会を組織し

- ①村のスポーツ少年団を含めた現状の共有
- ②部活動地域移行の必要性
- ③部活動地域移行の受け入れ団体の合意形成
- ④移行までのスケジュール

を確認しました。



スポーツ少年団と一緒に部活動(柔道)

その結果、

- ①部活動の受け皿となる団体は「総合型地域スポーツクラブ」とする。
- ②完全移行に向けて令和5(2023)年度は女子バレーボール部を先行事例として取り組む。その結果から課題や方向性を令和6(2024)年度以降に反映させる。柔道については単独で地域クラブ化を進める。
- ③移行にかかる指導謝金等の経費は行政が負担する。クラブの年会費についても半額助成する。ことが確認されました。

[令和5(2023)年度]

生徒の減少により団体戦に出られなくなった柔道については、先行して地域クラブ登録を果たし、団体戦は地域クラブチームとして出場しました。

女子バレーボール部については春の中体連(大会)が終わって7月からの移行を進め、その後の大会には学校部活動として出場しました。

指導謝金一人1時間あたり1,600円、部員19人分年会費3,000円の半額補助、事務費等の行政支援がありました。

[令和6(2024)年度]

柔道・女子バレーボール部に加え吹奏楽部が加わり、土日の部活動地域展開が始まりました。平日の部活動展開を見据え、吹奏楽部を除き週1〜2回実施しました。講師謝金について不足する分は保護者負担として年会費のほかに1人月2,000円〜3,000円の負担をいただき賄いました。

[令和7(2025)年度]

吹奏楽部の指導者として先生お二人に指導役を承諾していただき、兼職兼業申請と指導者登録のうえ3人体制での活動が始まり、複数の指導者による体制が図られ活動が充実したものとなりました。

スポーツ少年団で活動している男子バレーボールについては中学校では部活では活動できないため、令和8(2026)年度の地域クラブ登録で試合に出られるよう「地域展開」として男子バレーボール部を立ち上げました。さらには春季中体連終了後には、隣の鮭川村の中学校の女子バレーボール部の部員不足ということもあり、同村で部活動の地域展開を実施している「NPO法人さけがわ友遊クラブ」と連携し二つの中学校の合同部活動の広域連携に取り組みました。結果、新人戦の北ブロック大会で優勝という快挙も生まれています。



女子バレーボール合同チームでの初の試合



みごと、新人戦山形県北ブロック優勝！

「小さな村」の総力戦。大学生から地域住民まで、 みんなで支える指導と運営

指導者については、小さな村であるため多くの指導者はいませんが、スポーツ少年団や競技団体の指導者、地域指導者や教員の方々の協力により何とか活動ができる状況です。加えて村出身の大学生にサポートをお願いしたり、社会人チームとの合同練習を実施したりすることにより指導に関わってもらっています。

財源については基本的に行政が中心となって担っていることから、最低限の受益者負担にとどまっています。残念ながら部活動のコーディネーターの人的配置はなされていないなかでの運営になっており、事務経費として月15,000円程度が支給されています。

活動場所については、今まで活動してきた学校体育館や社会教育施設が優先的に使用でき、部活動としての利用は使用料も無料となり、それ以外でも1割程度の使用料のため活動場所に対する不安は今のところありません。ただし、吹奏楽については楽器を使用するため、学校の音楽室の利用と場所が限られていますが、地域指導者が学校関係者であるため鍵の管理については現状では問題なく行えています。

「子どもを置き去りにしない」。

行政区の枠を超え、地域(圏域)全体で守るスポーツ環境

この「部活動の地域展開」で重要なことは、“子どもを置き去りにしない”、“子どもたちのスポーツ環境は大人が責任を持つ必要がある”ということを、地域展開を進める行政や学校、クラブやそれに関わるすべての関係者の方々の共通認識であることがとても重要となります。

特に小さな自治体同士では市町村を超えた広域連携が必要となります。行政や学校が「自分の行政区の子どもたちだけ」という考えをあらため、圏域を大きな意味での「地域」として捉えることが重要で、「地域(圏域)の子どもたちは地域(圏域)で育てる」という方向性を確認していくことが求められています。

3

取り組みの効果

「自分たちだけでは成長できない」。

広域連携が育んだ生徒の絆と、教員の「働き方改革」

成果としては、目的の一つである「教員の働き方改革」が確実に進められており、戸沢村では「令和8(2026)年度から中体連の大会を除き教員が土日の部活動に関わらない」という方針が確認されています。また「教員の働き方改革」に合わせた平日の部活動の時間が短縮されるなか、ガイドラインを守ったうえで、平日の部活動移行についても進められています。「土日に家庭にいられる喜び」や「授業の準備ができる」などの声も聞くことができました。

また、子どもたちにとってはスポーツ少年団の指導者が部活動の指導にも関わるため、小学校から一貫した指導を受けられるようになったことや、指導者にとっても今まで無報酬だったものが有償となり、自覚と責任がさらに意識されるようになっていっていると感じています。新たな種目「男子バレーボール部」を設立し活動できたことも「子どもたちのやりたいスポーツ環境の整備」の面では有用であり、次年度につながる取り組みと感じています。

広域連携の面では他村学校の部員不足のため合同でチームをつくることになり、受け入れる側の生徒は「自分たちだけでも競技は続けられる。でも、それでは自分たちは成長できない。切磋琢磨してスキルを上げることが大事」と話し合い、他の部員を喜んで受け入れたということです。精神的にも子どもたちの成長が感じられました。

理解者・協力者を増やし、課題を乗り越え、地域に愛され続ける組織へ

課題としては、部活動地域展開前と比べ保護者の経済的負担が増えたことや送迎の時間が増したことが挙げられます。受益者負担は当たり前のことになりつつありますが、部員が増えることでわが子が試合に出られなくなってしまう現状も含め、さまざまな点で保護者の理解を得る必要があります。

また、コーディネーターとしての人員が配置されていないため、行政や学校、保護者等との連携や調整、指導者との連携・調整などの業務が一部の指導者とクラブマネージャーが担っており、業務的に負担を感じる場面もあります。

受け手側のクラブの体制についても、“力量”が問われます。「部活動地域展開」に限らず、クラブ運営が継続可能となるようにさらなる体制強化の取り組みが急務です。よく「人」・「もの」・「金」といいますが、どれが欠けてもうまくいかないと思います。クラブが地域住民に愛され続け、一緒に“地域づくり”に取り組みながら住みやすい環境づくりを行うためにも、理解者・協力者を増やしクラブ運営に参画してくれる方を増やすことが大切です。

4

クラブの今後の展望

子どもたちだけでなく地域住民一体となった活動の場をめざして

部活動地域展開の目標としては、

- ①「市町村の垣根を越えた広域連携での部活動地域展開」
 - ②「子どもがやりたい活動の場を確保するための部活動地域展開」
- の二つを掲げています。

①については、急激な少子化による部員の減少により団体競技ができなくなる、あるいはやりたい種目がなくなってしまう現状を打開するために、他のクラブと連携し、市町村の垣根を越えた広域的な地域展開をめざしていきたいと思います。しかし、行政主導で進めるわけではないため、多くの壁が存在します。具体的には、戸沢村が属する広域行政区域には1市4町3村の計8自治体があります。一つの自治体だけでも地域展開にはさまざまな調整が必要ですが、広域となれば、その作業や課題のすり合わせは連携する自治体の数だけ存在することになります。首長や教育委員会、学校、保護者などの連携に対する意識や支援の規模・速度には差があり、合意形成は困難です。また、運営や移動手段等の実務課題も各自治体で事情が異なり、その数だけ調整の「壁」が存在します。これらすべての足並みをそろえるには膨大な労力と時間を要するため、早急な支援獲得は望めない状況にあります。それでも「子どもたちの未来のため」に、諦めずに一歩ずつ取り組みたいと思います。

②については、部活動に代わるマルチスポーツ部や総合文化部（吹奏楽部や美術部等）、子どもたちがやりたい種目（ダンス・バドミントン等）などの活動の場を創出することです。現在、その実現に向けて教育部局・中学校との協議を進めています。平日の活動や土日の活動など、部活動の地域展開事業として子どもたちのみならず地域住民の方の参加も促しながら、地域一体となった活動の場となるようめざしたいと思います。

NPO法人とざわスポーツクラブ クラブマネジャー 今井 徹

クラブプロフィール

設立年月日 平成19(2007)年 2月25日(平成25年5月1日 法人登記)

所在地 山形県最上郡戸沢村大字蔵岡3718-1

運営 会員数:192名(令和7年4月現在)、予算規模:23,000,000円(令和7年度)

特徴

- 多種目・多世代の活動の展開
- 行政と連携した地域課題の解決の取り組み
- 地域健康推進活動・福祉活動の推進
- 文化的活動の推進
- 学校と連携した子どもの体力・健康増進の取り組み

連絡先 〒999-6315 住所:山形県最上郡戸沢村大字神田3633
 TEL:0233-29-7475 FAX:0233-29-7476
 HP:<https://furesupocha3.com/>
 E-mail:furesupocha3@gmail.com

